

關係委員意見聽取書面

関係委員 (敬称略)	(所属) 国立大学法人 新潟大学 農学部農学科 教授 (氏名) 関島 恒夫
聴取日	令和6年9月12日
聴取者	環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 高木審査官 環境省大臣官房環境影響評価課環境影響審査室 寺田審査官
要領2.(3) 利害関係者の除外	
・意見聴取しようとする事業に係る利害関係の有無。 利害関係 有 ・ 無	
要領2.(4) 秘密保持の承諾	
・環境影響評価法手続に基づき作成される図書に含まれる希少な動植物種の生息・生育地の情報その他の秘匿すべき情報を外部にもらさない旨の承諾。 承諾 ・ 非承諾	
＜関係委員意見概要＞	
クマタカについて	・本事業と対象事業実施区域の大部分が重複する他事業（以下「同区域の他事業」という。）の調査結果で、クマタカの行動圏の解析結果及び区域内の衝突予測個体数の250mメッシュごとの分布状況が大きく異なっている。同じ地域なので、事業ごとに異なる解析結果を元に大臣意見を決定するのは公平性、客観性の観点から問題と考える。 ・観察条件や定点配置によって、メッシュごとの飛翔軌跡の距離は変わってくるが、同区域の他事業と同条件であれば同じような解析結果となると考えられる。どのような観察条件の違いによってこの差が生じたのかについては精査した方が良いが、本事業の衝突予測個体数の算出については過少評価となっている可能性はある。区域南側の風力発電設備については、風力発電設備の削減又は配置の見直しを検討すべき。 ・尾根部はクマタカの行動圏の境界になっており、クマタカ同士が威嚇し合う場所でもあるので、ペア間の干渉行動が無いかを確認する必要がある。干渉行動が見られた高利用域の境界部については特に衝突リスクが高くなる。高利用域外の干渉行動が見られた風車についても衝突リスクについて留意が必要となる。

サシバについて

- ・「風力発電事業におけるクマタカ・チュウヒに関する環境影響評価の基本的考え方」に基づき、400haの採餌可能域が確保されているかについては確認する必要がある。一方で、単位面積当たりの採餌環境の質が高い場合等では400ha未満でも生息が可能となっているペアもあり得るかと思う。
- ・営巣適地及び好適採食環境の解析については、植生と標高だけだと説明変数が少ないと考えられるので、説明変数を増やしたうえでMaxent等のモデルを用いたポテンシャルマップの作成を行った方が良いと思われる。
- ・高利用域内においては、営巣期の工事は避けるべき。
- ・対象事業実施区域が主要な渡りルートであるかどうかの分析が必要だと考える。縦方向にレーダーを回すことで縦方向の飛翔傾向を確認し、ローターの回転範囲が主要な渡りルートでないのであれば影響は少ないと判断することもできる。